

としょえもん

2015年度(平成27年度)

第3号



編集・発行: 八王子市学校図書館サポートセンター

愛宕小学校は平成26・27年度の東京都言語能力向上拠点校・八王子市教育委員会研究指定校として、児童の実態や「生きる力」の育成、学校図書館の活用という社会的な要請を踏まえ、「『自分の考えを深め、相手に分かりやすく伝えられる子』の育成～学校図書館の活用を通して～」を研究主題に掲げて取り組んできました。研究発表会は平成28年1月26日に行われました。



意欲的に学習する児童の様子



学校図書館の活用の視点から

八王子市学校図書館サポートセンター

本研究では、情報カードを用いた調べ学習の取り組みが各学年で行われていました。この背景には、事前に各担当の先生方と学校司書が打ち合わせを行い、資料をそろえたり、授業の支援に入ったり、子どもたちの相談を受けたり、という取り組みの積み重ねがあります。

指導にあられた帝京大学教育学部初等教育学科・教職大学院教職研究科教授の鎌田和宏先生のご講演では、「『心を豊かにする楽しみとしての読書』に加えて『問題解決のための考える読書』が重要である」ということや、次期の学習指導要領で求められる「基礎基本の習得に加えて情報活用能力を身に付け、探究活動に取り組める子どもの育成」についてお話がありました。「環境整備だけでなく、研究した成果を継続発展させていくことが大切」と締めくくられたことが印象的でした。

今回の研究授業には学校司書も携わってきたことから、学校司書の研修として20名全員が研究発表会に参加しました。ここで学んだことをそれぞれの勤務校にもち帰り、学校図書館を活用した授業が展開されることでしょう。

「放課後も学校図書館を開放して」

上柚木中学校

上柚木中学校では毎週月曜日と木曜日に、図書ボランティアのみなさんの協力で学校図書館の放課後開放を行っています。

ボランティアはこの他、学校司書の方と毎月一回打ち合わせを行い、月ごとに本の整理や修理、掲示物の作成などの活動をしています。

学校図書館を開放すると並行して、放課後学習教室も同じ場所で行っています。こちらでは、大学生などの学習ボランティアが生徒たちの勉強をサポートしています。



手の届くところに資料や辞書があることで調べものがしやすく、また、勉強の合間に気分転換として本を読む生徒もおり、学校図書館がにぎわっています。



学校図書館ボランティア活動紹介

定期的な活動に支えられて

「ボランティア全員で 全学年への読み聞かせを実現」

松木小学校

松木小学校では、月1回（低学年は月2回）の朝の読み聞かせをボランティアで行っています。

2年前までクラスごとに行っていた朝の読み聞かせは、現在はボランティア全員で当番を決めています。そのため、自分の子どものクラス以外の読み聞かせを担当することもあります。低学年の保護者が高学年に読み聞かせをするときは、反応の違いに驚くこともありますが、いいです。

読み聞かせが終わった後には交流会を開き、読んだ本や児童の反応を皆さんで紹介し合います。また、読んだ本は「読み聞かせ通信」に本の題名、作者、本の入手先、読み聞かせにかかった時間、感想などを記録し、図書室に保管しています。いつでも見ることができるので、次に読む本の参考になっています。

皆さんの活動は「学校図書ボランティア通信」というお便りで全校に紹介されています。松木小学校の読書活動を支える大きな存在です。



「絵本の読み聞かせで小中交流」

いずみの森小中学校 第三中学校

平成24年度より小中一貫校となった第三中学校では、小中交流行事のひとつとして、隣接する第六小学校の全学級を対象に毎年一年生全員で絵本の読み聞かせを行っています。今回は必要な75冊を、第三中学校の蔵書のほか、第六小学校との学校間貸出しを利用して揃えました。

本番に向けて、まずは12月に各学級6〜7名で班を作り、班名や読む絵本の分担などを決めるところから始めました。また、練習の前には学校司書による特別授業を行い、生徒たちは読み聞かせの仕方やコツを学んだり、実際に読み聞かせを聞く体験をしました。そして、練習は主に国語の授業を使って進められ、互いの班の良いところや改善点を指摘し合い、より完成度の高い読み聞かせを目指して工夫を積み重ねていきました。



本番を迎えた2月2日、第六小学校の朝読書の時間を使い16学級で一斉に中学生による読み聞かせが始まりました。緊張の表情を見せながらも練習の成果が表れた読み聞かせで、どの学級の子どもたちも絵本に入り込み、真剣に聞き入っていました。小学生・中学生ともに「楽しかった!」「またやりたい!」という声飛び交い、読み聞かせを通じた素敵な交流の時間となりました。

中学生パワーで活性化



「行きたくなる学校図書館」へ

梶田中学校

梶田中学校では、一人でも多くの生徒に学校図書館に関心をもってもらうため、クリスマス会や百人一首大会など、様々な催しものを学校図書館で開催しています。本が好きでない生徒でも行きたくなる学校図書館を目指し、生徒自身が運営をします。この活動を支えているのが、本校自慢の図書学習委員会です。

4月は、新入生に対して、学校図書館のオリエンテーションを行います。クラスずつ図書学習委員が貸出しの仕方や本の配置など、学校図書館の使い方を丁寧に説明し、学校図書館を身近に感じてもらえるように努めています。

夏休み前には、怪談ウィークを開催しました。学校図書館を暗くし、怪談本を読み合うという企画で、夏休み中の本の貸出し数増加キャンペーンとして実施しました。

梶田中学校で最大のイベントはクリスマス会です。クリスマス前の2週間前から、読み聞かせ、マジック、寸劇、ピアノや吹奏楽部の演奏など楽しいミニ出し物を毎日開催しています。

この期間中に本を借りた生徒全員にオリジナルのしおり、ブックカバーやカレンダーをプレゼント、さらに、借りた本の数だけポイントをためると、本校生徒によるオリジナル小説「八王子ミライ論」をプレゼントしています。プレゼントをめあてにたくさんの方々が来館者があります。

他にも、百人一首大会や出張貸し出しなど、本に親しむ様々な機会を生徒の手で作っています。



学校図書館の窓から 楽しい本 いろいろ

八王子市立小・中学校合同作品展 第11回「おおるり展」



読書川柳 (八王子市小学校PTA 連合会) 中学生科学コンクール (八王子市中学校PTA 連合会)

『ジョン万次郎』



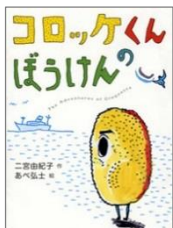
～海をわたったサムライ魂～

マーギー・プロイス著
金原瑞人訳/集英社

貧しい漁村に生まれた万次郎は14歳で遭難し、アメリカの捕鯨船に救出されました。南北戦争前の人種差別の激しい時代を生きた万次郎のエピソードが、現地に残された記録や資料をもとに描かれています。

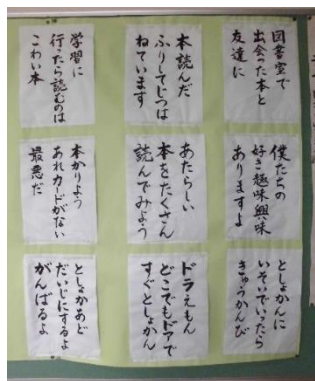
『コロッケくんのぼうけん』

二宮由紀子作/あべ弘士絵/偕成社



カニクリームコロッケは「海の男」になるべく、パイナップルのかんずめの空き缶と、はみがきコップと冒険の旅に出ます。旅の先々でおもしろい人たちに出会う3人!?果たしてコロッケくんは「海の男」になれるでしょうか…?

本を読んだり調べたりすることが楽しいと感じられる環境づくりには、ご家庭の協力も欠かせませんね。右は檜原小学校児童の作品です。保護者の方が毛筆で書いて展示してくださいました。



平成28年1月14日～18日、八王子市学園都市センターホールでおおるり展が開催されました。小・中PTA連合会が主催したそれぞれのコンクール入賞者の作品発表も行われました。家庭の中で、本や図書館を話題に語り合う姿が思い浮かぶ作品ばかりでした。

小P連では、平成21年度より「読書のまち八王子」に合わせた取り組みとして読書に関するコンクールを開催しています。今年度は第3回読書川柳コンクールとして「図書室(図書館)」をテーマとし、児童の部・大人の部合わせて10,000句を超える応募がありました。

児童の部の入賞作品の一部を紹介します。

八王子市教育長賞

「パパとぼく 昭和と平成 つなぐ場所」

第一小学校 橋本 龍之介

八王子青年会議所理事長賞

「おとうとに えらんであげるね たのしいほん」

山田小学校 柳井 智道

八王子市公立小学校校長会会長賞

「虫図鑑 探す私は 本の虫」 船田小学校 岡戸 紗希

中P連が主催する「科学コンクール」は今年で7回目になります。年々作品数が増え、各校での一次審査を通過し、二次審査に進んだ作品は34校154名にもなりました。優秀賞の3点は以下の通りです。

「蕎麦粉と小麦粉の配合実験」 石川中学校 川崎美愉 (3年)

「サボテンの生命力はどこにあるのか」 ひよどり山中学校

千田雪月・森田妃奈乃・城谷七星 (2年)

「アシナガバチの巣作りと成長観察」 山中中学校

渡邊大智 (2年)

学校の先生や家族のアドバイスを受けたり、インターネットや図書館を使って調べたり、時間をかけて仕上げた作品が展示されました。



発行日：2016(平成28)年3月15日

問い合わせ先：八王子市学校図書館サポートセンター

八王子市教育センター(八王子市散田町2-37-1)内

電話 042-664-1135/ファックス 042-662-2988